

テケウクテおばあさんの歯と イワクテ

旭川市博物館

ある上川アイヌの方から伺ったお話です。

1945年に80代で亡くなったテケウクテというおばあさんは、4人の娘を授かり、家族と同居していました。テケウクテおばあさんは、健康で病気ひとつせず、歯もすべて揃っていたといえます。

娘たちは「フチ（おばあさんに対する尊称）も高齢だから、いつながあってもおかしくない。その時がきても困らないように、フチの前歯を一本抜いておかなければ、迷ってあの世に行けないのではないか」と案じていましたが、ある日、前歯が一本抜けたので安堵したそうです。

さて、テケウクテの娘たちは、母の成仏を願ってなぜ歯を抜こうと考えたのでしょうか？

アイヌの人びとは、精魂こめて作りだしたモノには良い魂が宿ると考えています。やがて役割を終えた器物などは、イワクテ（使えなくなった道具などの魂をカムイの国へ送りかえすこと）の際に、どこか一箇所にキズをつけることで、そこから魂が解放され、カムイの世界に還ることができるのです。

歯を一本抜かなければ成仏できないというこの話の背景には、イワクテのキズと同様に、そこから魂を開放するという意味があったのかもしれません。

前歯が欠けたテケウクテの身体を抜け出した魂は、やがてシンリッウタリオシニ モシリ（先祖が安らぐ世界）へたどりつき、平穏に暮らせるだろう、と参列者は口々に話していたといえます。